## 事後評価調書

	事業概要								
事業名		交通安全施設等整備事業(自転車歩行者道設置)							
地	区名	(一) 西萩原北方	一)西萩原北方線						
事	業箇所	一宮市西萩原地内							
		本路線は一宮市の	は路線は一宮市の中心部を縦断する一般県道富田一宮線と直交しており、一宮市西部における南						
		北の幹線道路であることから交通量が多くなっている。							
事	業のあ								
i	らまし		た本路線においては大徳小学校の通学路指定もされているが、現道の歩道幅員は2.5mと十						
			→な幅員がなく、通勤・通学時間帯には自転車と歩行者、通学児童とのすれ違いも十分にできな → サルにもり、完全な歩行者空間の確保のためにも連絡かな改良が望まれている。						
		い状況にあり、安全な歩行者空間の確保のためにも速やかな改良が望まれている。 そのため、早急に自歩道を整備し、自転車・歩行者の安全を確保する。							
		【達成(主要)目標】							
事業目標			<b>道路幅員の再配分により</b> 歩道部を拡幅して自転車と歩行者の円滑で安全な交通を確保する。						
7	·* ロ	【副次目標】(事	前評価時に設!	定した場合、	記載する)				
		事業費							
事業費		1. 22 億円	■工事費	1.16 億円			■その他	0.06億円	
事	業期間	,=::	 <sup>z</sup> 成 19 年度	着工年	变 平成 19	9 年度	完成年度	平成 20 年度	
-	- 414 -1	工事延長 L=760m	自歩道設置	工事	•				
争	業内容	排水工N=1式、緣	石工L=293m、	街渠工 L=92	4m、舗装工 A=	8, 451m2			
II 評価									
	1) 主要								
		の 達 歩道が拡幅されたことにより、接触しやすい状況が改善された。また、自転車と歩行状況 移動速度の違いによる自転車の停滞が無くなり円滑な通行が可能となった。							
事	成状	りを対す中のも					-	自転車と歩行者の	
①事業目標			いによる自転				-	自転車と歩行者の	
標の		【達成状況に	いによる自転 対 <b>する評価</b> 】	車の停滞が無	くなり円滑な	通行が可能	能となった。	自転車と歩行者の れ、衝突や接触を	
達		【達成状況に	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
ᆄ		【達成状況に 移動速度の 避けるととも	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
成状況	2) 副次	【達成状況に 移動速度の 避けるととも	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
成状況	標の	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と に円滑な交通	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
成状況	· ·	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と に円滑な交通	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
	標の	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】	いによる自転 対 <b>する評価】</b> 違う歩行者と に円滑な交通	車の停滞が無 自転車が余袖	くなり円滑な Yをもって通行	通行が可能	能となった。		
Ш	標 の成状 対応方針	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 「達成状況に ・事業の実施	いによる自転対する評価】 違う歩行者と に円滑な交通が 対する評価】	車の停滞が無 自転車が余裕 が行えるよう 部における自	くなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者	通行が可能できる環境の安全確保	能となった。 竟が整備され	れ、衝突や接触を	
<b>Ⅲ</b>	標の成状 対応方針 後の事後	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 達 、 ・ 事業の実施 ・ 初期の事業	いによる自転対する評価】 違う歩行者と に円滑な交通 対する評価】 こより、歩成し こよりを達成し	車の停滞が無 自転車が余裕 が行えるよう 部における自	くなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者	通行が可能できる環境の安全確保	能となった。 竟が整備され	れ、衝突や接触を	
Ⅲ 今:	標 の成状 対応方針	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 「達成状況に ・事業の実施	いによる自転対する評価】 違う歩行者と に円滑な交通 対する評価】 こより、歩成し こよりを達成し	車の停滞が無 自転車が余裕 が行えるよう 部における自	くなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者	通行が可能できる環境の安全確保	能となった。 竟が整備され	れ、衝突や接触を	
今:	標の成状 対応方針 後の事後	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 「達成状況に ・事業の実施 ・初期の事業 考えていま	いによる自転対する評価】 対する評価】 違う歩行者と に円滑な交通が 対する評価】 こより、達成し こよりを達成し す。	車の停滞が無 自転車が余裕 が行えるよう	くなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者	通行が可能できる環境の安全確保のことからなっ	能となった。 境が整備され 民と交通の円 今後の事後記	れ、衝突や接触を 1滑化が図られた。 評価は必要ないと	
今:	標の成状 対応方針 後の事後 の必要性 善措置の	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 「達成状況に ・事業の実施 ・初期の事業 考えていま	いによる自転対する評価】 対する評価】 違う歩行者と に円滑な交通が 対する評価】 こより、達成し こよりを達成し す。	車の停滞が無 自転車が余裕 が行えるよう	くなり円滑な 学をもって通行 になった。 転車と歩行者 ご発揮している	通行が可能できる環境の安全確保のことからなっ	能となった。 境が整備され 民と交通の円 今後の事後記	れ、衝突や接触を 1滑化が図られた。 評価は必要ないと	
今価の要	標の成状 対応方針 後の事後 の必要性 善措置の生	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 「達成状況に ・事業の実施 ・初期のいま 考えていま ・初期のとおり 本事業は一般	いによる自転対する評価】 違う歩行者とに円滑な交通が は、円滑な交通が 対する評価】 こよりを達成し よりを達し 、初期の事業	車の停滞が無 自転車が余裕が行えるよう かにおける 自 改善効果 を 計 のを 達成 し	だくなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者 ご発揮している にいるため、	通行が可能できる環境の安全確保のことから。	能となった。 境が整備され 会後の事後記 置は必要ない	れ、衝突や接触を 1滑化が図られた。 評価は必要ないと	
今価。改要	標の成状 対応方針 後の要性 番生 事業	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 【達成状況に ・事業の実施 ・初期の事業 考えていま 上記のとおり 本事業は一般	いによる自転対する評価】 違う歩行者とに円滑な交通が は、円滑な交通が 対する評価】 こよりを達成し よりを達し 、初期の事業	車の停滞が無 自転車が余裕が行えるよう かにおける 自 改善効果 を 計 のを 達成 し	だくなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者 ご発揮している にいるため、	通行が可能できる環境の安全確保のことから。	能となった。 境が整備され 会後の事後記 置は必要ない	れ、衝突や接触を 引滑化が図られた。 評価は必要ないと いと考えます。	
今価。改要	標の成状 対応方針 後の事後 の必要性 善措置の生	【達成状況に 移動速度の 避けるととも 【達成状況】 【達成状況に ・事業の実施 ・初期の事業 考えていま 上記のとおり 本事業は一般	いによる自転対する評価】 違う歩行者とに円滑な交通が は、円滑な交通が 対する評価】 こよりを達成し よりを達し 、初期の事業	車の停滞が無 自転車が余裕が行えるよう かにおける 自 改善効果 を 計 のを 達成 し	だくなり円滑な がをもって通行 になった。 転車と歩行者 ご発揮している にいるため、	通行が可能できる環境の安全確保のことから。	能となった。 境が整備され 会後の事後記 置は必要ない	れ、衝突や接触を 引滑化が図られた。 評価は必要ないと いと考えます。	